

疎開体験 絵本で後世に

沖縄出身の普久原さん（熊本市）

私財を投じて熊本、沖縄両県の交流に取り組む熊本市中央区の普久原朝輝さん（88）＝那覇市出身＝が、太平洋戦争の疎開体験を題材にした絵本を制作している。イラストは崇城大芸術学部 of 学生に依頼。完成後は両県の小学校計約600校に寄贈する予定だ。

普久原さんは1944年、戦況の悪化で沖縄から熊本に疎開。船と列車を乗り継いでたどり着いた旧千丁村（現八代市）で、終戦を迎えた。絵本は、村の子どもとの交流や戦闘機の機銃掃射から必死で逃げた普久原さんの体験がベース。義理の息子の有田英樹さん（60）＝大分県別府市＝が本文を手掛けた。

来春完成へ 友人との交流描く

普久原さんは同じ千丁村に疎開していた縁で、「帰ってきたウルトラマン」などの子ども向け特撮やアニメ番組の脚本を手掛けた故・上原正三さん＝那覇市出身＝と晩年、親交を深めた。絵本のイラストを大学生に依頼したのは、「若いクリエイターを育てたい」と語っていた上原さんの遺志を継ぐためという。26日には崇城大に奨学金50万円も贈る。

絵本は来年5月の完成を目指している。普久原さんは「疎開先で友人に温かく迎えられて救われた。他人の苦しさにも共感する大切さと、戦争の悲惨さを子どもたちに伝えたい」としている。

（高宗亮輔）